

第 98 号	Super Highway	
発行日 2025.11.28		J R 東労組ホームページ

第 2 回分会代表者会議開催！

11 月 25 日 13 時より、中央本部会議室に首都圏協議会・古畑副議長、唐紙副議長を来賓に迎えて、各分会の代表者が集いました。

【議題】

1. 年末手当について
2. 職場の諸問題について
3. 2026 新春旗開きについて
4. その他



年末手当の団体交渉報告では、会社側の回答に対し人間味がなく冷たいと強い不満が示され、社員数が減少する中で黒字を出しているにもかかわらず、現場の努力が評価されていない、生活実感に即した還元がないことなどへの批判が多くあがりました。特に、現場で働く我々の負担増や物価高騰を踏まえた賃金改善を求める声が強い中、会社の姿勢に失望感が広がっていることを確認しました。

また、年休買上げ制度や要員不足に関する議論では、会社が「適正要員は全員が休めて仕事が回る人数」と説明するも、現場では通常期においても休日出勤が発生しているのが現実。我々の協力を「賃金で返しているからイブン」とする会社の言い方に反発がありました。休暇を取る人と取らない人の間で不公平感が生じ、現場の疲弊が深刻化していることも指摘されました。

今回取り組まれた「短冊行動」は、組合員のみならず未加入者も多く参加してくれて、現場の雰囲気を変える成果として評価。若手の社員からは「こんなにももらえるのか」と肯定的に受け止める一方、ベテランは「過去に比べて低水準」と不満を抱くなど、世代間で受け止め方に差があることも浮き彫りとなりました。

最終的に、数字的には納得できないが「みんなで闘えた達成感があった」として妥結の判断に至りました。妥結は、悔しいが次につなげるためであり、今後の春闘に向けて組織力を高め、未加入者の参加を広げていくことが重要と確認されました。会社の冷たい姿勢に失望しつつも、現場の声を形にする取り組みが次の交渉への力になるとの認識を共有しました。

J R バス 関東で働く仲間を一つに！